

2019年7月8日
公立大学法人滋賀県立大学
日本電気硝子株式会社

産学連携の協力推進に関する包括協定の期間延長および寄附講座の継続に合意

公立大学法人滋賀県立大学（理事長：廣川能嗣）と日本電気硝子株式会社（社長：松本元春）は、本日、産学連携の協力推進に関する包括協定（以下、協定という）を締結しました。

両者は、2007年に第1回の協定を締結して以来、ガラス工学分野において寄附講座の設置や共同研究等の連携事業を継続的に行ってまいりました。今般、第4回までの成果を高く評価し、協定の更なる期間延長と寄附講座の継続に合意したものです。

協定は今年度で13年目を迎えます。研究活動の長期的な計画を可能とするため、対象期間は現行協定満了後の2022年4月1日から3年間としております。

滋賀県立大学と日本電気硝子は、これからもガラス工学分野での連携を通して社会の発展に貢献してまいります。

「産学連携の協力推進に関する包括協定書」について

①目的：

- ・双方が有する人的物的資源と知的財産を有効に活用し、その成果を社会に還元する
- ・双方が緊密な交流を行うことにより地域の産学連携を推進し、もって社会の発展に貢献する

②連携事業：

- ・ガラス工学分野における技術開発、新規技術に関する共同研究や技術交流の実施
- ・ガラス製造プロセス工学に関する寄附講座の設置
- ・連携事業に基づく成果発表や情報交換等の実施
- ・次世代を担う学生および社員の人材育成に関する相互協力

③実施期間：

2022年4月1日から2025年3月31日まで

寄附講座「ガラス製造プロセス工学」の概要

①趣旨：

世界のトップレベルにあるわが国のガラス技術が更に牽引力を増すためには、ガラスの特性を最大限に発揮する効率的な製造プロセスを設計し、製造技術として活かしていくことが必要となる。このため、滋賀県立大学の持つガラス工学研究の実績をもとに、ガラスの溶融から成形・加工に至る信頼のおけるデータの測定と測定結果の物理化学的体系化等ガラス製造に関する基盤技術の総合的な研究を行うとともに、ガラス研究者・技術者の人材育成に取り組むことを目的とする。

②研究テーマ：

ガラス工学に関する基盤技術の総合的な研究

③研究体制：

滋賀県立大学工学部に「ガラス工学研究センター」を設置し、寄附講座を置くとともに、学内研究者等の参画を得て共同研究を推進し、ガラス製造技術に関する総合的な研究体制を構築

④寄附金：

3年間の設置期間に対し日本電気硝子が1億円を寄附（講座の運営に必要な経費に充当）

※2007年～2025年の寄附総額は6億円

以 上

本リリースの配布先

滋賀県政記者クラブ、京都経済記者クラブ

《本件照会先》

公立大学法人滋賀県立大学 地域連携・研究支援課

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

Tel: 0749-28-8209・8615

Fax: 0749-28-8473

日本電気硝子株式会社 総務部広報担当

〒520-8639 滋賀県大津市晴嵐二丁目 7 番 1 号

Tel: 077-537-1702

Fax: 077-534-3296